

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立新居浜商業高等学校

学校番号(8)

教育方針	人間力を高め、いきいきと活動し、将来をたくましく生き抜く生徒の育成 ～地域に貢献し、地域に愛され、地域とともに歩む新商～	重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を図り、時代の変化に対応したビジネス教育を推進する。 基本的な生活習慣の確立を行い、気持ちの良い挨拶のできる生徒を育成する。 地域と一体となった教育活動を推進し、ICT機器の効果的な活用に努める。 キャリア教育の充実させ、望ましい勤労観・職業観を身に付けた生徒を育成する。 ビジネススキルと倫理観を身に付け、地域や経済社会の発展に貢献できる生徒を育成する。
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	教材、教具の活用や個別指導、習熟度別学習、ティーム・ティーチングなど基礎・基本の定着を目指し、常に生徒が興味・関心を持って授業に参加できるよう工夫する。	B	個別指導に重点を置き、習熟度別講座編成やティーム・ティーチングに取り組んだ。学習習慣の定着につながる指導についてはまだ課題が残る。	評価との一体化を図り、学習習慣の定着につながる指導の強化と、指導方法の改善に取り組みたい。
		適正な評価ができるよう教科会等における教員相互間の連携を密にし、意識統一を図る。	B	教科内の連携を密にし公正な評価に向けた取組ができた。さらなる意識統一を図りたい。	講座間の情報共有を図り、評価の適正化に向けた指導方法を工夫したい。
		実社会を見据え、時間厳守・身だしなみ・言葉遣いの指導など、生活指導を行うことにより、職業人に求められる心構えや態度を身に付けさせる。皆勤者100名以上、出席率95%以上を目指す。 皆勤者 A:100名以上 B:99～90名 C:89～80名 D:79～70名 E:70名未満 出席率 A:95%以上 B:94～93% C:92～90% D:89～87% E:87%未満	C	皆勤者は大きく目標を下回りE段階となった。出席率については95%を超えることができた。担任を中心に家庭との連絡を密にして、長期の欠席を作らない取組を継続したい。遅刻者について地道に指導に取り組んでいるが、まだ多くの遅刻者がおり課題が残る。	遅刻生徒について、継続的に指導ができるよう工夫したい。健康上の理由や家庭の都合など意識的な部分から改善を図りたい。
		学年+1時間を目標に家庭学習に取り組めるよう適切な学習課題を与え、学習習慣を身に付けさせる。 A:90%以上 B:89～80% C:79～70% D:69～60% E:60%未満	C	学習意欲の向上に向け授業改善に取り組んだが、まだまだ家庭学習の習慣化には至っていない。本校の特徴である検定試験を契機に、学習習慣が身につけている生徒も一定数見られた。	検定試験合格を目指して学習に取り組ませ、成功体験を積むことで、学習の習慣化ができるよう指導力の向上に努めたい。
生徒指導	規範意識を高める指導	端正な身だしなみを心がける指導を徹底する。 身だしなみ指導合格率 A:98%以上 B:98～97% C:97～95% D:95～90% E:90%未満	A	再指導になる生徒はいたが、ほぼ100%の生徒が身だしなみ指導に合格している。学校評価の「身だしなみ指導が必要に応じて行われている」という項目では、生徒が70%、保護者が68%、教員が95%という評価になっている。	一方で、学校評価の「服装・頭髪等の身だしなみ指導は生徒・保護者に理解されている」という項目では、生徒59%、保護者61%という評価であった。生徒には、端正な身だしなみを心掛ける意義を伝えていきたい。
		スマートフォンやタブレット端末の使用も含め、情報モラルの高揚を目指す。 情報モラルを逸脱した行動による特別指導の件数 A:0件 B:1件 C:2件 D:3件 E:4件以上	E	授業中にスマホを利用していた生徒(5名)、SNSに不適切な投稿をした生徒(2名)に対して特別指導を行った。その他にも昼休みや放課後にスマホを指導する件数が増加している。	昼休みには毎日6名の教員が巡視をしている。来年度も継続して巡視を行っていきたい。生徒に隙を与えない授業と校内巡視及び生徒の観察を徹底していきたい。
	交通安全指導の充実	自転車交通マナー向上のための注意喚起に努めるとともに、市内一斉の登校指導や毎日の登下校指導を充実させる。 自転車による加害及び被害事故 A:0件 B:3件以内 C:5件以内 D:7件以内 E:8件以上	C	自動車・自転車などとの接触事故が5件あった。生命を危ぶまれるような大きな事故には至らなかったが、登下校中の事故が後を絶たない。	交通安全指導・登下校指導に加えて、時間に余裕をもって行動できる生活習慣を身に付けさせ、心と時間にゆとりのある登下校を徹底させたい。
	個を見つめた指導と家庭との連携・協力の充実	問題を抱える生徒の早期発見と、早期対応を心掛けるために、担任、教科担任、部活動顧問などがそれぞれの立場で個別面談を行う。また、欠席が3日続いた生徒に対しては家庭訪問を行い家庭と連携した対応に努める。	B	欠席や遅刻をする生徒への対応については、生徒が67%、保護者が57%の満足度であった。欠席・遅刻が多い生徒は、毎週の学年会で情報共有し、家庭と連携した対応に努めている。	コロナの影響により、中学次には「体調が悪い時は休むように」と言われてきた世代である。簡単に欠席するのではなく、自己の体調把握の下、頑張れる生徒の育成に努める方策を考えたい。
危機管理体制の構築	学校における組織体制や安全教育の重要性と緊急性を認識し、安全に関する意識や安全教育に関する指導力を一層高めるために、学校や地域の実態に即した研修及び訓練を実施する。	A	緊急避難訓練(4/14、10/27)を年2回実施している。避難中は私語なく迅速な行動ができており、講評をお願いした消防士より高い評価を得ることができた。	緊急避難訓練を年2回以上実施し、「自身の安全確保」「周囲の人々や建物の状況確認」「責任者への報告」などを徹底していきたい。	
教育相談	相談体制の充実	担任、教科担任、部活動顧問等と教育相談担当、養護教諭、スクールライフアドバイザーが連携を取りながら、生徒の悩みや課題の早期解決に努める。	B	生徒の悩みや課題の早期発見、解決のために学校生活アンケートの活用や担任等と生徒の状況をこまめに共有し対応にあたった。課題や悩みは多いが、生徒の気持ちに寄り添い、丁寧に対応することで多くの生徒が安定した学校生活を送ることができた。	生徒の悩みや課題は多様化、複雑化している傾向である。各々の気持ちに丁寧に寄り添うことを心掛け、安全安心な学校生活を送れるよう対応をしていきたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教育相談	特別支援教育の充実	学習や生活上での困難さを持つ生徒に対して、学校全体で支援体制を確立し、通級による指導等、個に応じた適切な支援や指導を行うよう努める。 通級指導による単位修得率 A:100% B:99~80% C:79~60% D:59~40% E:40%未満	B	通級による指導の受講生徒12名（1月末時点）のうち、10名が単位修得の予定である。	今年度は、通級による指導を受講している生徒のうち、退学1名、転学(予定)1名となっている。多様な生徒のニーズに対応し、本校での定着を図るような支援の工夫をしていきたい。
特別活動	部活動の充実	各部活動の入部状況を把握し、部活動加入率80%以上を目指す。部活動の活性化を図り、生徒の部活動充実度を高める。 部活動加入率 A:80%以上 B:79~75% C:74~70% D:69~65% E:65%未満	A	運動部・文化部を問わず、顧問の先生方の熱心な指導の影響もあり、加入率90.1%(275名/305名)と目標値を十分に達成することができた。	昨年(84.2%)よりも加入率は上昇しているもので、顧問の粘り強い指導を続けていくことが今後も大切だと考えている。
	生徒会活動の充実	学校行事、生徒会活動等を充実させ、生徒が中心となって運営できるよう、リーダーとなれる生徒の育成を目指す。 各学年3名以上のリーダー育成。合計9名以上。 A:9名以上 B:8~6名 C:5~3名 D:2~1名 E:0名	A	新規生徒会役員15名が、リーダーとなって学校行事を大いに盛り上げ、運営している。コロナ禍での自粛ムードも明け、生徒一人一人が輝ける場所を提供できていると考えている。	今以上にリーダーの質を向上させられるよう、日々のきめ細かい指導を継続していきたい。
進路指導	進学指導の充実	進学希望者全員の進学を実現する。 (進学決定率100%) A:100% B:99~98% C:97~96% D:96~95% E:95%未満	A	進学希望者32名中32名の進路が決定している。 (進学決定率100%)	今年度は進学希望者が少なかったが、国公立大学から専門学校までの幅広い希望があった。早い段階から進路先にあった対策が必要である。
	就職指導の充実	就職希望者全員の就職を実現する。 (就職内定率100%) A:100% B:99~98% C:97~96% D:96~95% E:95%未満	A	学校斡旋を希望している就職希望者59名中59名の内定が決定している。(100%)	就職試験で実施されるSPIなどの適性試験に対応するため、学力を身に付けさせる必要がある。
キャリア教育	体験学習の充実	地域に貢献し、地域に愛される活動を促す。 インターンシップを通して将来の進路選択に役立てる。 インターンシップ満足度 A:90%以上 B:89~80% C:79~70% D:69~60% E:60%未満	A	インターンシップを2月の中旬に実施した。インターンシップ実施までに、マナー研修や自己紹介文の作成などを通して心構えを醸成できた。	生徒の進路希望に応じたインターンシップ先を真剣に決定することが大切である。また、積極的な態度でインターンシップに臨む方法を検討したい。
	資格取得指導の充実	各種検定試験による資格取得を身近な目標として捉え、努力させる。さらに高度な資格取得に向け、挑戦する意欲を育てる。 1年生 検定3級2種目以上(目標70%以上) A:70%以上 B:69~60% C:59~50% D:49~40% E:40%未満 2年生 検定2級2種目以上(目標50%以上) A:50%以上 B:49~45% C:44~40% D:39~30% E:30%未満 3年生 検定1級取得者(目標30%以上) A:30%以上 B:29~25% C:24~20% D:19~10% E:10%未満 3年生 検定1級3種目以上(目標15名以上) A:15名以上 B:14~12名 C:11~9名 D:8~6名 E:6名未満	B	全国商業高等学校協会主催の検定試験(全9種目)において、1年生は108名中78名が3級2種目以上、2年生は99名中40名が2級2種目以上、3年生は98名中33名が1級取得を達成した。 1年生 検定3級2種目以上(結果72.2%)→A 2年生 検定2級2種目以上(結果40.4%)→C 3年生 検定1級取得者(結果33.7%)→A 3年生 検定1級3種目以上(結果9名)→C	上位級の資格取得につなげていくためにも、基礎・基本の定着の徹底を図りたい。生徒の理解度に応じて、習熟度別学習を行うなど効果的な指導体制の構築が必要である。資格取得を目指し、意欲的に学習に取り組む姿勢も育てていきたい。
	地域との連携活動の充実	地域との連携や協働する機会を積極的に教育活動に取り入れ、地域活性化に取り組む生徒の育成を目指す。 地域イベントへの参加生徒数 A:180名以上 B:179~150名 C:149~120名 D:119~90名 E:89名未満	A	地域の方から依頼を受けたり、本校が企画をしたりして191名の生徒が地域イベントに参加した。地元企業や行政とのつながりを広げ、深めていくことができた。	授業や部活動等で生徒が主体となり、活動する機会を今後も設定していきたい。地域に愛着を持ち、地域で活躍する人材を育てていきたい。
業務改善	適切な勤務時間	時間外勤務月45時間の遵守を目指し、時間外勤務月40時間以上の教員に対しての声掛けと、当該教員数(4月末時点23名)の50%削減を図る。 A:50%以上 B:49~40% C:39~30% D:29~20% E:19%未満	A	1月時点での時間外勤務、月40時間以上の教職員は10名となった。	グループウェアを活用したペーパーレス化や会議の開催、各分掌における業務の精選、また、日々の業務においても終業時刻での退勤などの声掛けや意識付けを行う。
	職場環境の整備	定期的に衛生委員会を開催することで、職場環境改善に関する教職員の要望の収集に努め、早期の対応を図る。また、学校医による定期的な健康相談及び管理職による面談、福利厚生制度についての周知・奨励を行うことで、教職員のメンタルヘルスの向上を図る。	B	定期的に衛生委員会を開催し、教職員の職場環境改善に向けて早めの対応を心掛けた。特に、新規採用教職員に対して、普段より声掛けや配慮を行うなかで、精神的なサポートを行った。	教職員一人一人とコミュニケーションを図るなかで、普段の業務対応に気を配り、また、積極的な情報収集に努めることで、風通しの良い職場環境づくりを実践したい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。